

八峰白神ジオパーク 八峰町の歴史 ~発盛鉱山~

連載 第87回

八峰白神ジオパークでは、発盛鉱山の跡地（現在の中央公園、中浜海岸など）を地域の見どころとして保全・活用しています。町の経済だけでなく、教育や文化にも影響を与えた発盛鉱山の遺構を巡ることで町の歴史を学ぶことが出来ます。



椿海岸で銀を見た工藤甚三郎の記念碑

遺構の紹介

○八峰町中央公園

現在の中央公園は、発盛鉱山において露天掘りを行っていた場所でした。その後、公園が造成され今はバスケットコートや公衆トイレが整備されています。また、発盛鉱山の歴史を伝える場所として、鉱山のシンボルであつた大煙突のモニュメントや説明看板が設置されています。

○海岸の黒い砂

八森の中浜海岸には黒い砂浜が広がっています。この黒い砂は、泊川河口から真瀬川河口付近まで続いています。黒い砂は一見すると砂鉄のようですが、磁石にはくつきません。実は、黒い砂は鉱滓（カラミ）で、成分的にはガラスに近いものになります。この砂は、当時操業し



発盛鉱山跡地のカラミレンガの塀

年（1990）まで稼働していました。また、かつて八峰町には発盛鉱山の他にも「八森銀山」「八森油田」「小入川炭鉱」などが存在していました。

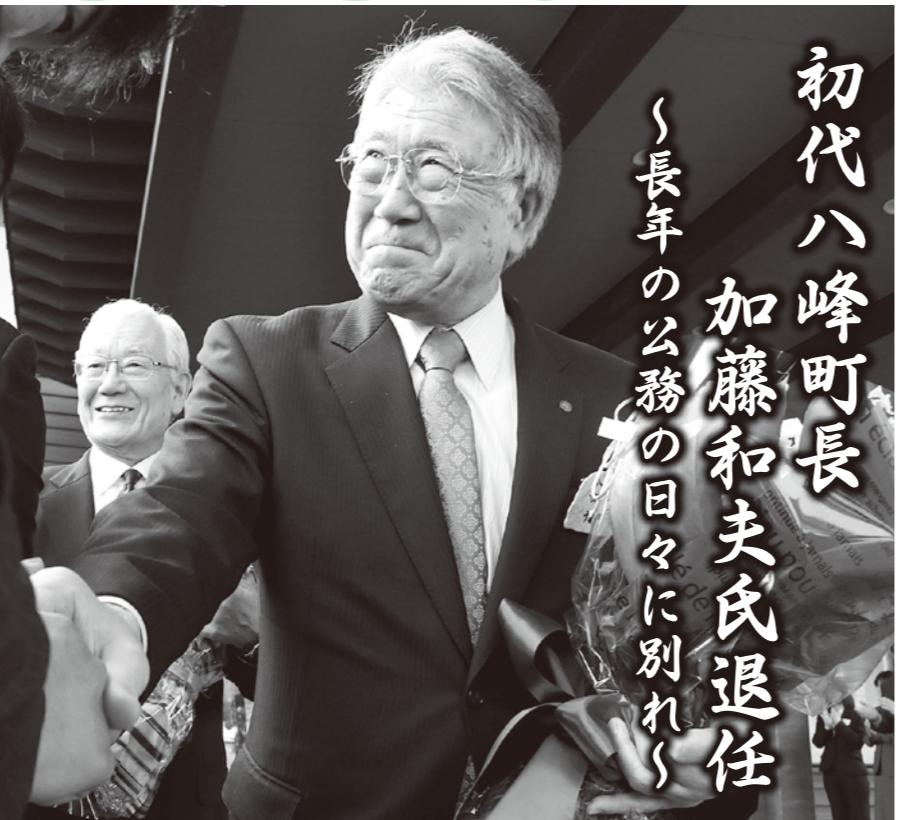
○カラミレンガ

発盛鉱山跡地の一画には重厚なレンガ塀が現存しています。これはカラミレンガと呼ばれるレンガを積み重ねて造ったものです。環境への配慮と資源の有効活用のため、前述のカラミから開発された商品でした。一般的なコンクリートのブロックなどに比べ、カラミレンガは黒光りしてずつしりと重いのが特徴です。そのため、カラミレンガは町内で塀や住宅の基礎などにも使用されました。

古い資料・写真を活用してみませんか？

ていた発盛鉱山の溶鉱炉で金属を取り出し、その残りかすに水を吹き付けて細かく砕き、消石灰と混ぜながら海に捨てたものが海岸に広がっているのです。

○椿銀山山神社 山神社は明治41年に建立され、危険が伴う鉱山での安全が祈願されました。また、神社の敷地内には明治21年に八峰町の椿海岸で銀鉱石を発見した工藤甚三郎の記念碑があります。



初代八峰町長 加藤和夫氏退任 ～長年の公務の日々に別れ～

4月20日、任期満了日の4月22日で退任する加藤和夫町長を送る会が役場大会議室で行われました。加藤町長は、5代目八森町長を2期務め、平成18年4月から初代八峰町長を3期12年務めました。

この日、加藤町長は役場職員を前に12年間を振り返りました。これまでの事業一つ一つに思い入れがあり語りつくせないとし、印象に残っていることとして合併協議や町誕生直後の役場庁舎の火災への対応などを挙げました。また、「少子高齢化や人口減少の問題が町の課題であり、総合戦略で進めてきた事業も効果は限定的であった。これは持続可能な町づくりのため新しいリーダーとともに継続的に取り組んでいく課題だ。」と話しました。また、職員に向けて、「常に町民目線で仕事をし、新しい情報に対応できるよう日々勉強して町の発展に貢献してほしい。」と激励し、これまでの感謝の意を述べました。

また、加藤町長を支えてきた伊藤進副町長、千葉良一教育長のお別れ会も同時に開かれました。伊藤副町長は平成22年から副町長を7年7か月務めました。千葉教育長は、八森町の収入役、助役、町合併当初の職務執行者を経て、教育長を11年11か月務めました。それぞれ、これまでの思い出と激励を含めたあいさつをし、町民・職員への感謝の意を述べました。

最後に職員が作る花道を通りながら大きな拍手で送られた3人は、これまで共に仕事をしてきた職員と固い握手を交わし、晴れやかな表情で慣れ親しんだ役場庁舎を後にしました。

要予約

【忌明け・回忌法要】

ご家族や少人数での法要は

鮨待夢の会席すし折詰め

5,000円から配達します
オードブル・お刺身も承ります



お寿司の宅配と
お持ち帰り
鮨待夢
SUSHI.TIME
能代店
能代市南陽崎31-20
TEL.0185-
55-3277

八峰白神ジオパーク推進協議会
(☎ 77-3086)までお問い合わせください。
皆様のご協力を願い申し上げます。

地域おこし協力隊 三輪拓磨
〒018-2632
秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四一
ぶなつコランド内
TEL 0185-77-3086